



県内宿泊者 最多508万人

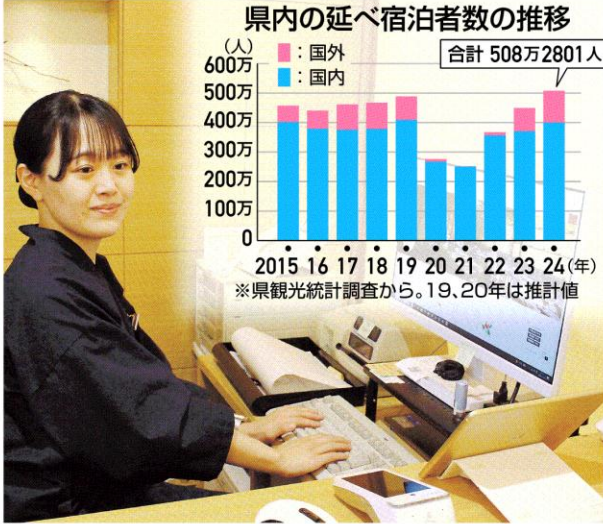
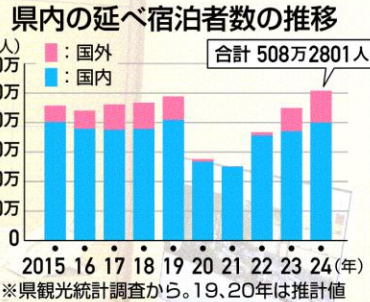
円安で訪日客初の100万人超

24年

大分県内の2024年の宿泊者数は延べ508万2801人で、23年に比べ58万9795人(13・1%)増えた。県が06年に統計を開始して以降、最多になった。コロナ禍を脱して観光需要の回復が進んだほか、円安で日本旅行をしやすくなった訪日客が初めて100万人を超えて底上げした。国内客も物価高の影響は見られたものの、底堅い動きを見せた。

県が21日に速報値を公表した。訪日客は108万1513人で、23年から29万3298人(37・2%)増えた。最多だった18年(89万4256人)を大きく上回った。23年4月に新型コロナが加速した。全ての国、地域で上回った。韓国が53万1689人

で27・4%の増。全体の半数近くを占めた。24年10月から大分空港(国東市)と韓国・ソウル(仁川)の定期路線が毎日の連航に増便したことも後押しした。



年末年始の繁忙期を控え、事務作業をする旅館のスタッフ。昨年12月、別府市

最も多かったのは福岡の107万8674人で5・1%増。J Rグループと官民が連携した大型誘客企画「福岡・大分ステイネーションキャンペーン」(4~6月)の効果も見られた。伸び率の高かった地域は▽四国 21・3%▽中部 14・2%▽中国 13・3%▽

国内客も底堅い動き

国内客はコロナ禍前の19年比では2・1%の減少。続く物価高や宿泊単価の上昇が影響し、上回るまでには至らなかった。

大分県観光政策課は「全体としては、観光事業者の努力で需要をうまく捉えることができた。25年は宇佐神宮御鎮座1300年などの行事があり、誘客につながるよう支援したい」と話した。

一方で旅館ホテルも他産業と同様に人手不足が深刻化しており、受け入れ態勢をどう維持していくかが課題になっている。

県旅館ホテル生活衛生同業組合(400社)の事務局は「宿泊者が増えるのはありがたいのだが、動き手が足りずに現場は1人当たりの労働量が増えている。賃上げや福利厚生環境を整えるためにも、長期滞在の旅行者を増やし、消費額を上げる工夫が求められる」と話している。(児屋野香純)

県の観光統計調査は2021年から「従業員数10人以上の全施設」を対象に毎月、宿泊者を集計している。20年以前は「従業員数10人以上の主な170施設」で実施していた。19、20両年は現行の基準で推計した参考値として出している。24年の確報値は7月ごろにまとまる。



〔問①〕 大分県内の2024年の宿泊者数は延べ何人ですか。

508万2801人

〔問②〕 うち、訪日客は何人ですか。

108万1513人

〔問③〕 訪日客のうち、最も多く来県した国はどこですか。何人ですか。

韓国 53万1689人

〔問④〕 国内客のうち、最も多く来た県はどこですか。何人ですか。

福岡 107万8674人

〔問⑤〕 観光・宿泊者数をさらに増やす方法を考えよう。訪日客、国内客のそれぞれで考えてみよう。

自由記述